

静岡赤十字病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

承認番号 研究課題名	NO 倫理委員会承認後の承認NOを記載 腹腔鏡下膣式子宮全摘術(ロボット支援下手術も含む)、術後腹膜炎のリスク因子の探索
当院の実施責任者及び 職名	研究責任者: 静岡赤十字病院 第二産婦人科 部長 市川義一 分担研究者: 同 産婦人科 医師 榑原愛美 同 産婦人科 医師 中山真里 同 産婦人科 医師 加藤雄一郎
多機関共同研究の場合 研究代表(責任)者	なし
研究期間(西暦)	当院倫理委員会承認後～2027年12月31日
対象期間(西暦)	2016年4月1日～2026年3月31日
研究の目的	従来開腹手術で行われてきた子宮全摘術の多くが低侵襲手術(腹腔鏡下子宮全摘術、ロボット支援下子宮全摘術)として実施されるようになってきました。しかし、低侵襲手術による子宮全摘術は、膣が腹腔内に開放する時間が開腹手術に比較すると長いことや、子宮を膣から体外に搬出する必要があることなどから、術後に腹膜炎を起こすことがあり、時として抗菌薬の再投与や入院期間の延長を要することがあることが報告されています。 これまでに当院で低侵襲手術として実施した子宮全摘術のデータを解析することで、術後腹膜炎発症のリスク因子を明らかにすることで更なる治療の向上、低侵襲化に繋げることを目的として研究を行っています。
研究の内容	2016年4月1日～2026年3月31日までに当院で実施した腹腔鏡下子宮全摘術(ロボット支援下子宮全摘術、腹腔鏡下子宮悪性腫瘍根治術を含む)症例を後方視的に電子カルテデータから抽出し、アウトカムを術後の腹膜炎を疑う症状の発生の有無として、年齢、手術適応となった疾患、合併症(糖尿病の有無や免疫抑制剤の使用など)、術式、癒着防止材の使用状況、予防的抗菌薬の使用状況、術後の検査データおよび入院期間の延長の有無および日数を説明変数としたリスク因子解析を行います。
個人情報の取扱い	データ収集の際に、個人情報は収集いたしません。本研究の成果は国内および国外の学会や論文として発表させていただくことがありますが、個人の特定につながる病歴などの要配慮個人情報は一切公表いたしません。
問い合わせ先 (拒否等受付窓口)	【研究担当者】 所属: 静岡赤十字病院 産婦人科 氏名: 市川義一(第二産婦人科 部長) 住所: 静岡県静岡市葵区追手町8-2 電話: 054-254-4311(代表)